

平成 29 年度 横浜能楽堂指定管理者業務評価表（外部評価）

	芦澤委員	足立委員	諸貴委員	横山委員
I 施設管理目標	<p><b>【評価できる点】</b> 全体として堅実な管理がなされていると思います。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 特にありません。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> ・業務の基準や計画に基づき、適切に体制が構築され、管理が行われており、評価します。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> ・老朽化が進行していることから、施設を現場で管理する視点から、必要な修繕等については、気づいた点を早めに市に指摘するなど、長期的に施設が安全かつ快適に使えるよう情報共有に努めてください。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 施設・設備の維持管理のための様々な取り組みが適切に行われていることを評価します。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 特になし。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 積極的な防災研修の実施。来場者への快適評価アンケートを実施していること、またその回答内容。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> アンケートにおける要改善意見については具体的に示して、リーズナブルな意見であれば課題として提示してほしい。</p>
II 施設運営目標	<p><b>【評価できる点】</b> 新しい運営方法を取り入れる努力が多方面に見られ高く評価できると思います。(チケット決済方法の新規導入、割引プラン、オリジナルグッズの開発販売等)</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> IT の進化が日々各方面へ変化をもたらしていると思います。特に 5G の本格稼働に伴い、エンターテインメント全体が大きく変化すると言われているようです。最新の情報を捉え、今まで以上に対応されるように希望いたします。 オリジナルグッズが好評なようですが、物販はもっと伸びるのではないかと思います。オリジナルグッズだけでなく、さらなる受託販売の可能性を探ってみたらいかがでしょうか。 また、既に尽力されているようですが、相次ぐ国際会議開催に伴い、横浜市の MICE 推進の動きに連動する形で事業が出てくることを望みます。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> ・クレジットカードによる支払い等、利用者の利便性を高めたり、「初めて割」や和のワークショップ等、利用促進に向けた新しい取り組みを複数実施するなどの積極的な姿勢を高く評価します。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> ・ニーズや費用対効果等を踏まえ、実施した様々な取り組みの評価や改善点の明確化を図り、限られた体制・予算の中で、財団ならではの効果を発揮するために、継続するもの、改善するもの、中止するもの等、的確な事業の選別を行ってください。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 本舞台の利用率達成を高く評価します。引き続き利用促進への取り組みを継続してください。 物販サービスの充実を行い能楽堂としての魅力向上に寄与していることを評価します。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 特になし。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 本舞台利用率が 50%を超えたこと。教育機関向け利用料減免制度、企業向け見学会、決済方法の多様化など、新しい取り組みを開始したこと。貸館の模様をツイッター中継する、利用案内配布先を拡大するなど、利用促進に努めた。ウェブサイトのレスポンスデザイン化は最大限に評価されるべき。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 大学能楽サークルへの利用案内が当該年度を過ぎた 4 月に配布されているが、年度内におこなわれていたら、4 月の新歓に結びついたのではないかと。 公演活動における来客が施設貸し出しのプロモーションの対象になっているのか知りたい。公演事業と施設貸し出し事業をリンクできるとよいのではないかと。</p>

平成 29 年度 横浜能楽堂指定管理者業務評価表（外部評価）

	芦澤委員	足立委員	諸貫委員	横山委員
Ⅲ 文化事業 目標①	<p><b>【評価できる点】</b> 高い企画力、運営力を評価します。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b></p>	<p><b>【評価できる点】</b> ・ダンスとのコラボによる新しいファン層の拡大や親子と先生の双方に働きかけを行う狂言の時間、横浜こども狂言等、新しいものの創出と既存の伝統芸能を広く普及することなど、多面的な切り口から事業を構成していることを高く評価します。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> ・講座の受講生が伸び悩んでいる状況は、事業の効果を限定的にさせるので、広報の工夫により事業の効果を最大化してください。 ・ダンスとのコラボなど新しい取り組みについては、鑑賞者からだけでなく、演者からの評価についても、フィードバックしてください。 ・また、利用促進策としての各種利用料減免策については、稼働向上とのバランスで効果の検証を行ってください。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 横浜能楽堂独自の企画性の高い公演及び能楽の裾野を広げる普及目的の公演を評価します。特にバリアフリー能では、文字通りあらゆる人への能楽の普及を積極的かつ継続的に行っていることが窺われました。高く評価します。 さらにどの公演も概ね目標の入場者数を達成していることも評価します。引き続きアンケート結果や意見交換会等で観客等市民のニーズを得つつ事業のさらなる発展を図ってください。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 特になし。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 普及公演における「あしなが育英会」学生鑑賞プロジェクトや多言語字幕システムの採用は、普及対象の多様化を狙ったものであり、実際に利用した人数以上の高い意義が認められる。この姿勢はバリアフリー能やその事前見学会にも見られるもので、指定管理者の長所である。 「先生のための狂言教室」は、求められていた教育現場へのアプローチの実践例として評価したい。 「応援割」は、講座事業と施設貸し出し事業をリンクする試みとして可能性を感じた。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b></p>
Ⅲ 文化事業 目標②	<p><b>【評価できる点】</b> 積極的な新しい取り組みを評価します。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 外国人の観光ニーズを捉えた、点ではなく面での魅力を発信できるような、多方面との連携がさらになされると良いかもしれません。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> ・様々なメディアでの発信の工夫、英語への対応等、利用促進の面で工夫がされています。また、地域との連携事業についても、複数年にわたって継続しており、評価できます。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 特になし</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 公演と連動した資料展示やギャラリートーク、地域や外部団体等との連携、情報発信に関する取り組みを評価します。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 特になし。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 企業・近隣へのアプローチ、チケットサイトの英語対応など積極的な発信があった。メディアへの露出が年間 50 件に及んだ。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 公演・講座記録のアーカイブ化の進行が遅い。</p>

平成 29 年度 横浜能楽堂指定管理者業務評価表（外部評価）

	芦澤委員	足立委員	諸貫委員	横山委員
IV 収支	<p><b>【評価できる点】</b> 堅実に収支管理がなされています。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 補助金助成金の金額的インパクトが大きいことが伺えます。引き続き、企業協賛等、財源の多様化に取り組むとよいと思います。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> ・収入減少に対応し、費用の圧縮を図り、赤字を抑えたことは評価できます。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> ・引き続き、自主事業制作に係る助成金などの確保に努めてください。 ・市外利用者への割引等、各種減免を拡充されていますが、収支に与える影響を注視してください。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 収入の増加及び経費節減に向けた取り組みを行っていることを評価します。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 特になし。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 外部資金獲得は目標を大きく下回ったが、獲得額 2 千百万円自体は立派な数字である。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> せっかく企業へ利用促進をおこなっているのだから、それを協賛金に結びつける方法はないだろうか。</p>
その他	(I～IV以外で何かお気づきの点があれば御記載ください)	(I～IV以外で何かお気づきの点があれば御記載ください)	(I～IV以外で何かお気づきの点があれば御記載ください)  バリアフリー能において様々な取り組みが伺えましたが、イヤホンガイドについて効果がどのようにあったのか反応を聞きたいです。	(I～IV以外で何かお気づきの点があれば御記載ください)

	芦澤委員	足立委員	諸貫委員	横山委員
総括	<p>従来より文化事業の質の水準の高さを維持しながら、施設運営において新しい取り組みに多数挑戦するなど、意欲的な施設運営がなされていることを高く評価いたします。また、企業との連携事業を模索し実現させるなど、多方面の連携に尽力しようとする姿勢も高く評価いたします。挑戦にあたっては想定通りに進まないこともあるかと思いますが、時間をかけて積み重ねることで当施設の価値が高まってくると思います。継続的な尽力と発展を期待したいと思います。</p>	<p>継続事業に加え、これまでの 2 期の実績を踏まえた提案がなされ、それらを積極的に実行に移している点が高く評価されます。施設利用率については、様々な取り組みが奏功し高まっているものの、公共施設として一層の向上を目指してください。</p> <p>第 3 期の中で能楽堂の効果を最大限引き出せる事業が何かという視点から、初年度の取り組みを評価して、継続性や事業目的の実効性を担保していく努力を続けてください。</p>	<p>横浜市の文化政策の 4 つの柱及び横浜能楽堂が目指す姿と果たす役割を踏まえた能楽堂の様々な取り組みが、第 3 期指定管理初年度として適切に行われたことと考えます。30 年度以降も公演事業をはじめ幅広い市民に向けた充実した取り組みを期待します。</p>	<p>従来、公演事業の充実に比して施設利用が伸びないことが課題であった。今年度は、本舞台以外の利用率と利用料の向上こそみられなかったものの、利用促進のための積極的な取り組みが見られたという点で、画期的な 1 年であったと評価したい。</p>

平成29年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
I 施設管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 施設及び設備の維持保全及び管理	①文化財(能舞台)の適切な保護 ②中長期的な視点による総合的な施設(建築物)、建築設備、舞台設備、備品等の保守管理の遂行 ③清掃、廃棄物処理及び環境への配慮等、植栽管理業務等の環境維持管理業務の実施 ④駐車場管理業務の実施	■日々の手入れと点検を実施し、必要に応じて専門業者による管理・メンテナンスを実施	実施	実施	横浜市有形文化財の認定を受けた貴重な文化財である能舞台を業務に基準に記されているとおり適切に管理しました。	【成果】 遺漏なく実施しました。適切な施設維持管理に努めた結果、アンケートでの快適評価も目標を上回りました。  【課題】 引き続き適切な管理実施に努めます。	【評価できる点】 ・業務の基準に基づき、施設及び設備の保全・管理が行われていることを確認しました。  【改善が必要と考えられる点】 ・施設の劣化状況等、引き続き日常的な監視を適切かつ確実に実施していただくとともに、アンケートによる来場者の方の御意見等、当課とのきめ細やかな情報共有を求めます。
		■職員および施設管理委託者による毎日の巡回と目視での点検により不具合の早期発見に努める	実施	実施	定期的な巡回のほか、利用後の状態確認を職員が行い、不具合発見時は報告書を作成しています。		
		■建物設備管理に起因する過失事故0件	適切な管理実施	適切な管理実施	業務の基準に示された内容を遵守し適切な管理を行いました。		
		□アンケートでの快適評価	4.0	4.51	A 来場者全員にアンケート用紙を配布し、協力を求めています。項目は①性別、②年齢、③居住地、④公演情報入手、⑤鑑賞動機、⑥能・狂言の鑑賞回数、⑦今回の公演について、⑧スタッフ対応・サービス、⑨施設の快適性、⑩今後取り組みたい文化活動、⑪意見・希望、の11項目です。		
		■環境維持管理に起因する過失事故0件	適切な管理実施	適切な管理実施	業務の基準に示された内容を遵守し適切な管理を行いました。施設利用後は職員及び清掃員で点検を行い、汚れを発見した場合は迅速に対処し報告書で情報を共有しました。		
		□駐車場の保守点検	年2回以上	2回	B 業務の基準に基づき適切に管理しました。		
		■駐車場および車両に起因する過失事故0件	適切な管理実施	適切な管理実施	お車で来館されるお客様がスムーズかつ安全に利用できるよう警備員と協力して対応しました。また、エントランス前は一方通行となっているため、タクシー利用が多い公演時は警備員等による安全確保に努めました。		
		□備品(収蔵庫)管理 害虫駆除	年2回以上	年2回	B 貴重な装束や能面等の収蔵品をカビや害虫から守るため、業務の基準に基づき温湿度及び塵芥管理と害虫駆除を行いました。		
□植栽管理	年2回以上	年4回	B 除草・剪定・刈込業務及び薬剤散布実施にあたっては、近隣住民と十分な調整のもと行い、市民の憩いの場である掃部山公園をはじめ周辺環境と調和するたすまいを保つよう管理を行いました。				
2 小破修繕への取組	①日常の管理・毎月の点検における不具合・不調箇所を発見し、早期の小破修繕等の対応 ②利用者の安全に関わる事案への最優先対応 ③不具合箇所等の市への報告による情報共有の実施	■日常の巡回点検、毎月実施する定期点検の中で不具合・不調箇所の早期発見に努め、部品交換や小破修繕の実施	実施	実施	経年劣化による不具合は避けられませんが、日常の管理、毎月の点検で、早期発見と適切な対応に努めました。	【成果】 遺漏なく実施しました。  【課題】 引き続き適切な対応を行い、遅滞なく市と情報共有を行います。	【評価できる点】 ・小破修繕について、必要に応じて行われていることを確認しました。  【改善が必要と考えられる点】 ・開館から20年以上が経過していることから、引き続き、指定管理者の本部を含め市と適切な情報共有を行い、速やかに修繕対応等の検討が進められるよう、積極的な働きかけを求めます。
		■問題箇所は、指定管理者本部施設管理チームからのアドバイスも参考にして対応	実施	実施	不具合については報告書を作成し、施設管理チームと情報を共有し技術的なアドバイスや他施設の類似事例に基づくアドバイス等を受けました。		
		■不調箇所はモニタリングを通じて市と情報共有	実施	実施	モニタリング時に修繕一覧を作成し提出しました。		
		■利用者の安全に関わる事案については、随時市に報告し対応を協議	実施	実施	利用者に影響がでるような事案については、報告書を市にメールで送付し情報共有と対応協議を行いました。		
3 事故防止体制・緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理	①各種事故等対応マニュアルの運用、整備 ②事故防止策、緊急時(防犯)対応 ③感染症対策等衛生管理の方針の策定 ④緊急時の連絡体制、防災に対する取組	■各種マニュアルを整備し備え置き	実施	実施	危機管理マニュアルを作成し館内で共有しました。	【成果】 遺漏なく実施しました。  【課題】 引き続き安全に配慮した運営に取り組みます。	【評価できる点】 ・計画通り、適切な体制で緊急時等の対応が行われていることを確認しました。  【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。
		■職員、補助職員、委託業者(清掃員)による施設内巡回等による速やかな対応	実施	実施	巡回のほか監視カメラ、機器モニタリングにより危険や不審者、要救護者を早期に発見できるよう注意を行いました。また、利用状況に合わせたこまめな施設管理などにより事故防止と防犯に努めました。		
		■緊急連絡網を作成し連絡体制を構築	実施	実施	館内の緊急連絡網を作成し職員全員が携帯、夜間、休日問わず速やかに報告・連絡・相談できる体制を整えました。本連絡網は市にも提出、情報を共有しました。		
4 防災に対する取組	①各危機管理マニュアルの整備及びそれに基づく訓練の実施 ②消防訓練(年2回実施) ③指定管理者本部からの情報提供 ④外国人来場者への案内 ⑤延命講習の受講 ⑥汚物処理研修 ⑦救急時の医療機関への搬送	□消防訓練(避難誘導訓練を含む)	年2回	年2回	B 危機管理マニュアルに基づいた訓練を行いました。	【成果】 障がい者や外国人の方のご来場を想定して消防訓練を行い、施設を安心して使用できるよう自衛消防隊による緊急時の体制を整えました。また、ノロウイルス対応研修、AED研修を行い、幅広く緊急時に対応できるよう訓練しました。  【課題】 研修成果を維持できるよう、今後も定期的に研修を行います。外国人への対応策として、英語やピクト等のパネルによる案内など今後検討してゆきます。	【評価できる点】 ・消防訓練等、防災時の想定などを含めて、ユニバーサル対応に向けて積極的な取組を行っていることを評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・緊急時対応の訓練や研修等について、取組の継続やさらなる改善点の検討を進めてください。
		□消防設備の取扱研修	年2回	年2回	B 消防訓練実施時に合わせて実施しました。		
		■外国人来館者・障害者の避難誘導体制を整備	実施	年2回実施	— 車いすでのお客様など障がい者を想定した誘導訓練を行いました。外国人への対応は英語による口頭での案内が想定されます。		
		□普通救命講習1を全職員が受講済とする	全職員の実施	全職員の実施	B 消防訓練実施時にAED研修を全職員が受講したほか、11月の普通救命講習を1名が受講しました。		
		□ノロウイルス対応研修	年2回	年2回	B 救急救命研修としてAED研修1回、ノロウイルス研修1回		
		■救急時は救急医療機関を紹介、搬送の手配	実施	実施	— 救急医療機関紹介、搬送手配実績はありませんでした。		
		■事務室及びチケットブースで近隣の診療所や救急相談センターの情報等を共有	実施	実施	— 西区及び中区の急患診療所、横浜市救急相談センターの情報等を共有しました。		

平成29年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 能楽等の公演、稽古、創作その他の活動のための施設の提供	1 適切な施設の提供、運用	■開館時間 午前9時～午後10時	実施	実施	利用者から開館時間前後の利用要望はなく、指標どおりに施設を提供しました。	【成果】 目標を達成しました。利用料金設定を工夫したことなどで利用申込受付に支払方法についてはクレジットカード・電子マネーによる決済を導入しお客様サービス向上をはかりました。  【課題】 今後もお客様の利便性向上を目指して改善をすすめます。	【評価できる点】 ・適切に施設運用を行っていたことを確認しました。 ・施設の利用促進や次世代育成の取組として、第3期指定管理期間から減免の対象範囲の拡大を行ったこと、また、利用者サービス向上のため、クレジットカードや電子マネーでの決済導入へ積極的に取組んだことを評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。	
		■受付・チケット販売 午前9時～午後8時	実施	実施	チケット発売日にスタッフを増員するなど適切に対応しました。			
		■貸館受付 午前9時～午後10時	実施	実施	受付開始日のシフトを工夫するなど、年間を通じてスムーズな運営に努めました。			
		■利用料金の設定:現行の利用料金体系を継続教育機関の貸館利用については半額減免制度を新設	実施	実施	達成指標のとおり実施し、教育機関の半額減免制度による学校鑑賞会の利用申込受付が1件ありました。			
		■受付方法:横浜市能楽堂条例施行規則に則り、能狂言とそれ以外の古典芸能で受付開始日を変えて受付	実施	実施	本舞台について、能・狂言に関する利用受付開始は24か月前の第2日曜日、それ以外は12か月前の第2日曜日とし、能・狂言の優先利用を促しました。			
		■支払方法:現金、振込、郵便局払込で收受	実施	実施	達成指標のとおり実施したほか、3/1から新たにクレジットカード、電子マネー決済を導入しました。			
	2 貸館の利用率が高まる工夫による施設の利用促進	■古典芸能鑑賞会、施設見学会等について学校や旅行代理店にプランを提案	実施	実施	MICE振興課へ能楽鑑賞プラン提案1件提案しました。また、新たな取組みとして企業向け見学会を2回実施しました。三菱地所レジデンスクラブとは具体的な連携も実現し、会員向け「匂い香ワークショップ」を1月に開催できました。また、和の楽しみシリーズとして施設見学会付ワークショップ(第二舞台利用)を実施しました。匂い香ワークショップ実績:①20人 ②20人、和綴じ本ワークショップ実績:①18人②17人、一閑張りワークショップ実績:①17人②22人	【成果】 企業向け見学会をはじめ開催し、見学会参加者から、パーティー利用について個別相談、資料送付依頼があり、今後必要とされる内容を把握できました。それにもとづき平成30年度は具体的なプランを策定します。  【課題】 商談には案内できる利用プランが必要なため、平成30年度上半期を目的に策定し目標達成を目指します。また、パーティー利用については、運用マニュアル整備も必要なので、合わせて検討し作成します。	【評価できる点】 ・貸館の促進や施設のさらなる活用に向けて、企業向け見学会やMICEに関するプラン提案へ取組んでいることが確認できました。 ・「和のワークショップ」など、古典芸能へ関心を持つきっかけづくりに繋がる取組を実施したことについても、評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・次年度以降は、パーティー利用等のプランなどを策定し、横浜能楽堂側からの貸館のアプローチを継続することで、アフターコンベンションなどのMICE等での施設利用を積極的に受け入れる姿勢を示すことを期待します。	
			□アプローチ件数	15件	15件			B 企業向け見学会を12月と2月に開催、計30名の参加がありました。その他、施設の下見や電話での問い合わせ等、対応を行いました。
			□商談件数	3件	1件			C 独立行政法人理化学研究所のアフターコンベンションとしてパーティー利用の引き合いがありました。
	3 新規の利用者を増やすための工夫	■利用案内のDMを送付し貸館を周知	実施	実施	過去利用者、近隣、友の会、能楽サークルへのアプローチのほか、月間スケジュール「橋がかり」にワークショップや見学会等利用案内を掲載し、広く周知に努めました。	【成果】 年間を通じて新規利用者増をはかる新規の取組みについて検討を重ね、平成30年5月から「初めての朝割」「初めてのU25割」「応援割」の3種を開始することになりました。友の会会員向けの案内には会員数が目標件数に至っていないため、目標を下回りましたが、すべての公演の目標入場者数は達成することができるとともに、友の会の会員へ施設利用の御案内を毎月の会報で実施するなど、案内内容の充実を図りました。  【課題】 新たな割引制度を実績につなげ、利用料金収入を向上させることが課題です。平成30年度は、5月からの開始に向けての事前周知と、効果的な広報に努めます。	【評価できる点】 ・新規利用者の増加に向けて、今までに行っていない友の会会報や月間広報物への施設利用の御案内掲載など、検討にとどまらず、具体的な取組を実施していることを評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・平成29年度の取組や平成30年度からの大学能楽サークルへの御案内・割引制度の運用等について、取組の効果分析を行い、継続を行うだけでなく、改善についての検討を進めることを求めます。	
			平成29年度 利用案内DM送付件数					
			□過去施設利用者	50件	50件			B 10月会報に封入しました。
			□近隣住民	年2回	年2回			B ザ・パークハウス伊勢町レジデンスギャラリー(9月)、ザ・タワー横浜北仲モデルルーム(2月)で利用案内を配布しました。
			□友の会会員(直近・過去を含む)	1,000件	749			C 会員数が目標に達していなかったため、送付件数が目標を下回りましたが、会報に案内を封入するほか、月間スケジュール「橋がかり」に案内を掲載し広く周知を行いました。
			□大学能楽サークル	5件	—			C H30.4に20件発送済み
	4 指定期間における利用料金収入、利用率の考え方、利用率の達成	■初めて割(25歳以下の利用者)と応援割(ワークショップ修了者)の仕組みを検討	実施	検討中	現状の利用状況を鑑み検討した結果、平日午前の利用促進を促すもの、若い世代の利用を促すもの、ワークショップ受講者からの継続利用を促すもの3種のプランに取り組むことになりました。H30.5から「初めての朝割」「初めてのU25割」「応援割」として開始します。	【成果】 本舞台については、「子ども狂言ワークショップ」や「SAYUSA-左右左-」の公演制作・リハーサル等で本舞台を活用したこと等により、目標を達成することができました。  【課題】 利用料金収入が目標より大きく下回っていることを大きな課題ととらえています。新規利用者の開拓、利用率の向上をはかる新たな取組みを検討し、平成30年度初旬から実施します。	【評価できる点】 ・本舞台の利用率については、平成32年度までに達成することを目標としていた利用率50%を達成したことを高く評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・利用率が増加している一方、利用料金収入は目標未達であり、来館者数については前年度よりも減少しているため、貸館の促進などにより、利用率の維持と利用料金収入及び来館者数向上の一体での実現を期待します。	
□平成29年度 利用料金収入			16,100千円	14,395千円	C 第2期指定管理期間のうち最も高かったH25年度(16,099千円)を基準とする高い目標値であったこと、自主事業準備(「子ども狂言ワークショップ」「SAYUSA」)で利用する回数も多く、収入をあげられなかったことが主な要因です。施設貸出利用案内の周知を工夫しましたが、目標に達しませんでした。			
平成29年度 施設目標利用率								
□本舞台(日)			40% (平成32年度50%)	50%	A 8月86%と2月80%が全体の利用率を押し上げました。8月は通常の主催事業のほか「子ども狂言ワークショップ」、「SAYUSA」の準備があったこと、2月は「初めての能楽教室」発表会に向けた練習が行われたことが主な要因となっています。			
□第二舞台(日)			61%	57%	B レジデンス事業等の利用予定枠を実際は利用せず利用率がさがりました。主催事業のワークショップにより利用率アップを図りましたが、目標に若干届きませんでした。			
□研修室1・2			31%	34%	B 概ね目標通りです。			
□研修室3・4	47%	46%	B 概ね目標通りです。					

平成29年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%以内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

1 能楽等の公演、稽古、創作その他の活動のための施設の提供	5 貸館、舞台の適切な運営体制の整備	■開館時の運営体制:1階 補助職員	3名以上	3名以上	—	開館時はエントランス及びチケットブースのある1階は補助職員を常時3名配置しています。	【成果】 目標どおり実施しました。  【課題】 シフト勤務間でのコミュニケーションを密に行うことで情報共有の漏れをなくし、現状以上に適切な運営を維持できるよう体制を整えます。	【評価できる点】 ・計画通り、貸館や公演等における適切な運営体制を整えていることを確認しました。  【改善が必要と考えられる点】 ・貸館の積極的な促進等に向け、引き続き、運営体制及び広報協力の柔軟な対応を求めます。	
		■開館時の運営体制:事務室 職員	2名以上	2名以上	—	開館時は常時2名以上になるようシフトを調整し貸館に対応しています。			
		■本舞台利用時の運営体制:舞台技術者による対応	1名以上	1名以上	—	本舞台利用時は常時1名を配置し対応しました。			
		■本舞台における公演・発表会の開催時の運営体制:補助職員	2名~4名増員	2名~4名増員	—	本舞台で公演、発表会を開催する際は、緊急時の避難誘導など安全を確保するため補助職員を適宜増員しました。			
		■事務室の職員全員が貸館に対応できるよう、マニュアルを整備	実施	実施	—	マニュアルを全職員で共有しました。			
		■貸館の手引きを改正し、利用者に施設利用に関する情報をわかりやすく伝える	実施	実施	—	利用者との打合せにきめ細かく対応し、必要な情報は館内で共有しました。			
6 要望・苦情への対応、職員における共有	6 要望・苦情への対応、職員における共有	■公演ごとに実施するアンケートを分析し、お客様の要望・苦情を把握し対応	実施	実施	—	回収したアンケートは迅速に集計し、館内で共有・対応しました。主なご意見はモニタリング時に市にも報告しています。	【成果】 目標どおり実施しました。トラブル対応については、迅速にレポートを作成し市と共有を行うとともに、職員間では館内グループメールを有効に活用して周知を行いました。  【課題】 引き続き遺漏なく進めます。	【評価できる点】 ・業務の基準通り、要望・苦情等へ適切に対応するとともに、職員間で共有を行っていることを確認しました。  【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。	
		■必要に応じ財団事務局、横浜市と情報共有	実施	実施	—	報告の必要がある場合は、対応策も含め事務局・横浜市に報告し対応しました。			
		■クレームについてレポートを作成し職員間で共有	実施	実施	—	事象・原因・改善策をまとめたレポートを作成し、全職員で共有しました。			
2 利用促進及びサービスの向上	7 各貸出施設の利用促進に対する取組み及びプロモーション	■各室について稽古利用ができることをSNS やちらしで周知	実施	実施	—	館内掲示のほか、月間行事予定「橋がかり」9月第2舞台、10月研修室の利用案内を掲載しました。	【成果】 各種プロモーションを着実に実施しました。新たな試みとして「和の楽しみシリーズ 施設見学会付ワークショップ」(1/23,2/26,3/16計7回124人)を実施しました。和のワークショップは引き続き平成30年度も実施し、新たな利用者創出をはかります。  【課題】 新たな取組みを定着させていくことが課題です。今年度の検討に基づき、平成30年度5月から「初めての朝割」「初めてのU25割」「応援割」の割引プランを開始します。また、有料のパーティー利用や2Fレストラン利用についての詳細を整えて利用促進に向けたプロモーションを行います。	【評価できる点】 ・ツイッターやウェブページを活用し、様々な古典芸能等のジャンルで施設の活用ができることのPRを継続していることを評価します。 ・ウェブページのスマートフォン対応を行うなど、誰もが情報を得やすいよう配慮を行っていることについて高く評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・今後、パーティー利用等のプランや割引制度など、利用促進に向けた情報をさらに発信していくことを期待します。	
		利用案内DM 送付件数 (再掲)							
		□過去施設利用者	50件	50件	B	10月会報に封入しました。			
		□近隣住民	年2回	年2回	B	ザ・パークハウス伊勢町レジデンスギャラリー(9月)、ザ・タワー横浜北仲モデルルーム(2月)で利用案内を配布しました。			
		□友の会会員(直近・過去を含む)	1,000件	749件	C	会員数が目標に達していなかったため、送付件数が目標を下回りましたが、会報に案内を封入するほか、月間スケジュール「橋がかり」に案内を掲載し広く周知を行いました。			
		□大学能楽サークル	5件	—	C	H30.4に20件発送済み			
		■ツイッターやWEBページを活用し貸館情報、利用紹介や案内を告知	実施	実施	—	ツイッターで貸館の模様を実況ツイートしました。			
		■気軽に情報にアクセスできるよう、WEBページのスマホサイト化を検討	実施	実施	—	3/30にスマホ対応サイト化を実施しました。			
		■本舞台の1時間単位での貸出のPR	実施	実施	—	利用案内、ホームページで周知しました。			
		■WEBページでの施設空き状況の情報提供の検討	実施	実施	—	WEBへの情報アップタイミングや手続き、予約システムとの連動など解決すべき課題が多いため、引き続き検討を行います。			
		■撮影利用、アフターコンベンション等の利用希望への積極的な対応	実施	実施	—	MICEワーキング会議にて紹介(8月)、企業様向け見学会2回実施 29名(12月)、企業様向け見学会 1回実施 1名(2月)			
		■公演利用者への付加サービスの提供の具体内容検討	実施	実施	—	旧レストランをでの屋食や公演後のレセプションなど、検討をすすめています。			
		■初めて割(25歳以下の利用者)、応援割(ワークショップ修了者)の検討、実施(再掲)	実施	実施	—	現在の利用状況を検討した結果、平日午前の利用促進を促すもの、若い世代の利用を促すもの、ワークショップ受講者からの継続利用を促すもの3種のプランに取り組むことになりました。H30.5から「初めての朝割」「初めてのU25割」「応援割」として開始します。			
		■2階レストランスペースでの打ち上げ、屋食利用等の提案	実施	実施	—	有料のサービスを検討し、提案準備をすすめています。			
		8 お客様からの意見箱の設置及び対応によるサービスの向上	8 お客様からの意見箱の設置及び対応によるサービスの向上	意見箱の設置	実施	実施			—
□ロビー	1か所			1か所	B	エントランス受付に設置し、いつでもご意見をいただけるようにしました。			
□楽屋	1か所			1か所	B	楽屋入口に設置し、いつでもご意見をいただけるようにしました。			
9 物販サービスの実施	9 物販サービスの実施	■本舞台利用時にショップの営業を実施	実施	実施	—	オリジナルのお菓子や関係書籍を公演時に販売し、能楽堂での思い出をお持ち帰りいただくサービスの一助となりました。H29年度ショップ収入は152万円で、館の収入に貢献しています。	【成果】 目標どおり実施しました。新たにオリジナルグッズを7品目追加したことで、ショップの賑わいが増し、魅力が向上しました。オリジナル生落雁「鏡板」も季節に合わせた展開を行い、売上も好調でした。  【課題】 今後も公演や季節に合わせた魅力的な品揃えに努め、お客様サービス向上と売上向上につなげます。	【評価できる点】 ・横浜能楽堂らしさを発信できるオリジナルの和菓子等の販売を継続的にを行い、指定管理料以外の収入確保に繋げていることを評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。	
		■新しいオリジナル商品の開発に着手	実施	実施	—	新てぬぐい「舞」の関連グッズとしてハンカチ、ブックカバー等7品目を追加しました。			
		■オリジナル生落雁「鏡板」の販売を強化	実施	実施	—	季節や公演内容に連動させ、紅白、抹茶風味、桜型灯を展開しました。			
		■新てぬぐい「舞」と関連グッズの販売を強化	実施	実施	—	関連グッズの種類も増えてにぎやかなディスプレイとなり、お客様に選ぶ楽しみを提供できました。			

平成29年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

2 利用促進及びサービスの向上	10	フリーWi-Fiの運用をスタート	実施	実施	-	5/1提供開始	<p>【成果】 ガイドなしの見学者におけるタブレット利用率を把握することができました(約20%)。今回把握できた内容を踏まえ、今後のタブレットをはじめとする端末活用について検討してゆきます。</p> <p>【課題】 タブレット以外の他の操作端末を含め、来館者への満足度向上につながる情報提供方法を経費面も含め検討します。</p>	<p>【評価できる点】 ・フリーWi-Fiの運用を行い、来館者のサービス向上に寄与したことを評価します。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 ・タブレット等の導入を含め、ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>や東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、外国人観光客、古典芸能の初心者等、誰もが公演を楽しむ機会提供に向けて積極的に活用することを期待します。</p>
		□ロビー・展示廊エリア 常時提供	1台	1台	B	館内自由見学者向けタブレット10台を試験導入(3/3-4/15)しました。また、Wi-Fiを活用したクレジットカード・電子マネー決済システムを導入しました。		
		□見所エリア 必要時に提供	2台	2台	B	初心者向けの公演開催時にタブレットガイド(日・英)を50台導入しました。(実績:1回)		
3 組織的な施設運営の取組、職員の確保・職能、配置及び育成	11	■管理運営チームリーダーが貸館と施設広報を担い、利用率達成を目指す	実施	実施	-	チームリーダーの役割を明確にし、貸館営業を強化しました。下半期には利用率向上の具体的なプランも整いました。	<p>【成果】 目標どおり実施しているほか、平成30年度の公演と作品制作のため台湾とのレジデンス(8月横浜、12月台湾)を行い、台湾に職員が立ち会いました。また、バリアフリー能に依り毎年度実施している「バリアフリー研修」では、知的障がい者について学び、知的障害者向けの施設見学会、避難誘導の訓練等の対応に生かすことができました。</p> <p>【課題】 今後も館の運営・事業を円滑に行える体制を整え、引き続き人材育成の工夫を継続します。</p>	<p>【評価できる点】 ・計画通り、人員配置が行われているとともに、公共施設であり専門文化施設として必要な研修等を実施していることを確認しました。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 ・安定的な施設運営が行える体制を維持するとともに、引き続き、事業企画や施設管理等の職員配置や育成等のノウハウの蓄積が必要です。</p>
		■プロデューサーとなる企画制作担当職員は、先輩後輩のペア制をとりOJTを実施	実施	実施	-	公演ごとに1事業2名体制を明確にし、OJTを実施しました。		
		■館長(エグゼクティブ・プロデューサー):1名 経営グループ長:1名 管理運営チームリーダー(貸館営業担当):1名 職員:7名(企画制作4名、庶務経理1名、広報営業1名、施設管理1名) 補助職員:17名	配置	配置	-	施設管理1名が補助職員ではありますが、新たに位置づけた管理運営チームリーダーが統括することにより業務計画通り実行しています。		
		□開館日数	339日	339日	B	計画通り開館しました。		
		□施設点検のための休館日	年間26日	年間26日	B	計画通り必要な施設点検を行いました。		
		■館長を除き、ローテーションでの勤務体制	実施	実施	-	早番、遅番の2交代制を基本として午前9時から午後10時までの開館時間を適正な出勤人数で運営しました。		
		■主催事業や貸館内容に応じて勤務体制を調整し、柔軟に対応	実施	実施	-	人員を要する主催事業や貸館状況がある際は、月1回の全体会議等で確認、シフトを調整し柔軟に対応しました。		
		□バリアフリー研修	1回	1回	B	「知的障がいについて学ぶ」をテーマに講師を招き知識を習得しました。		
		■公文協・劇音協ほか外部セミナーの受講を推奨し、専門知識の習得に努める	実施	実施	-	6/2海外アーティストとの契約セミナー受講、6/9-10公文協全国大会出席、7/3-7/7ステージュラボ高知参加(自主事業・音楽コース)、11/27写真の撮り方研修、11/29古典芸能こども取組み研修、12/6公文協音響改修研修、2/20-23ステージュラボ横浜参加(自主事業・音楽コース)、2/20公文協研修「NHK横浜放送局に聞く公共性」、2/28カルチャーニッポン、「能装束講座」2回実施 講師:能装束研究所 山口憲 氏(能装束研究者)		
		■公演視察、財団主催研修へ職員を参加させ資質向上およびスキルアップをはかる	実施	実施	-	4/12新採用カルスタ研修、5/27あざみ野カレッジ「舞台衣装デザイナーの仕事」受講、6/1新採用職員研修(事務局)、7/11親世能楽堂視察、8/10横浜市マーケティング研修、8/28横浜市コンプライアンス研修、9/12カルッツかわさき内覧会、9/22財団経理研修、9/30山本能楽堂視察、10/1金沢能楽美術館、石川県立能楽堂視察、10/5横浜市コンプライアンス研修、12/5貸館における法律知識研修、12/8横浜市人権研修、12/20ワークライフバランス研修、2/13TPAMスピードネットワーク 2名、2/13 SNS研修2名、2/23専門人材プレゼン研修 2名		
		調査研究のための出張						
■国内	1か所	4カ所(5回)	-	沖縄3回、金沢1回、大阪1回、新潟1回				
■海外	1か所	2カ所	-	スペイン、チェコ				
4 本市の重要施策を踏まえた取組	12	■個人情報取扱マニュアルに則り適切に対応	実施	実施	-	個人情報取扱マニュアルを全員で共有しました。	<p>【成果】 コンプライアンス事案等生じず、遺漏なく実施しました。</p> <p>【課題】 引き続き、職員のコンプライアンス意識の醸成に努めます。</p>	<p>【評価できる点】 ・個人情報保護のほか、公共施設として対応すべき事項が確実に実施されていることを確認しました。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。</p>
		□個人情報取扱研修	年1回	年1回	B	6/21に印刷物手順確認研修を行いました。		
		■印刷物を中心にダブルチェックの徹底	実施	実施	-	印刷物は経営グループ長まで複数名で校正し、誤記載を防ぎました。		
		■コンプライアンス委員会での情報共有	実施	実施	-	コンプライアンス委員会後すみやかにメモを作成し、職員に共有しました。		
		□全職員対象コンプライアンス研修	年1回	年1回	B	3/7に実施しました。		
		□横浜市主催人権研修に職員参加	年1回	年1回	B	12/8泉公会堂に参加し、職員と共有をしました。		
		■省エネルギー・節電・ごみ減量に取組む	実施	実施	-	施設の利用状況に合わせて不要な電気や空調オフにしました。利用者にはごみを極力お持ち帰りいただき、持ち帰りが困難な場合はごみ袋を有料で提供し量の抑制をはかりました。		
		□中小企業への優先発注	全発注の9割以上	全発注の9割以上	B	市内中小企業への発注を原則としました。		
■労働時間を適切にコントロールし、超過勤務の抑制に努める	実施	実施	-	職員平均超勤時間 14.2H/月				

平成29年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

Ⅲ文化事業目標①	評価項目	H29年度計画		実施状況		評価	
		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価
1 能楽等の継承・振興・発展に向けた次世代育成、愛好者の拡大	能楽等の古典芸能の継承、振興や発展に向けた公演、講座・ワークショップの実施	普及公演「横浜狂言堂」毎月第二日曜日に開催	全12回	12回	4/9、5/14、6/11、7/9、8/13、9/10、10/8、11/12、12/10、1/14、2/11、3/11	【成果】 「人間国宝が案内する能の名曲」では、一流の演者の視点で語られる解説が好評であり、また、演目も初心者でも楽しめるものを厳選したため、今まで能楽に馴染みのなかった人にとっても満足度の高い公演となり、顧客の裾野拡大につながりました。また、タブレットシステムの提供については、各メディアでも取り上げられ注目度の高い取り組みとなりました。	【評価できる点】 ・「横浜狂言堂」で実施する社会貢献のプロジェクトの対象として、児童養護施設だけでなく「あしなが育英会」の児童へ拡大を行い、より多くの方への公演鑑賞の機会提供を行ったことを評価します。 ・「人間国宝が案内する能の名曲」では、タブレットの提供を行い、初心者でも能楽等に親しむきっかけづくりを実施したことが確認できました。
		□券売率	90%	97.7%	4月91.9%、5月93.3%、6月100%、7月100%、8月100%、9月100%、10月100%、11月100%、12月99.6%、1月99.6%、2月89.5%、3月100%	【課題】 タブレットでの字幕配信については、英語以外での利用や、解説時の同時配信など、今回利用したサービス以外でも様々な可能性があるため、今後の鑑賞サポートツールとしてよりよい形での提供を考えます。	【改善が必要と考えられる点】 ・タブレットの活用については、より多くの公演での実施、多言語対応や高齢者・子ども向け対応など、さらなる活用や対象拡大の検討を行ってください。
		□入場者数	437人/回(12回 5,244人)	464人/回(12回 5,576人)	もう1枚分のチケット代金で児童養護施設児童に加え「あしなが育英会」学生が鑑賞できるプロジェクトを実施し4名が鑑賞。	【成果】 タブレットでの字幕配信については、英語以外での利用や、解説時の同時配信など、今回利用したサービス以外でも様々な可能性があるため、今後の鑑賞サポートツールとしてよりよい形での提供を考えます。	【改善が必要と考えられる点】 ・タブレットの活用については、より多くの公演での実施、多言語対応や高齢者・子ども向け対応など、さらなる活用や対象拡大の検討を行ってください。
		普及公演「人間国宝が案内する能の名曲」	7月2日 1回	1回	Wi-Fiシステムを活用した多言語字幕システムをタブレットで提供、50台を無料貸与しました。	【課題】 タブレットでの字幕配信については、英語以外での利用や、解説時の同時配信など、今回利用したサービス以外でも様々な可能性があるため、今後の鑑賞サポートツールとしてよりよい形での提供を考えます。	【改善が必要と考えられる点】 ・タブレットの活用については、より多くの公演での実施、多言語対応や高齢者・子ども向け対応など、さらなる活用や対象拡大の検討を行ってください。
		□券売率	80%	100%	初心者でも楽しめる演目と一流演者の解説付きの工夫で販売予定枚数は完売しました。	【課題】 タブレットでの字幕配信については、英語以外での利用や、解説時の同時配信など、今回利用したサービス以外でも様々な可能性があるため、今後の鑑賞サポートツールとしてよりよい形での提供を考えます。	【改善が必要と考えられる点】 ・タブレットの活用については、より多くの公演での実施、多言語対応や高齢者・子ども向け対応など、さらなる活用や対象拡大の検討を行ってください。
	「クリエイティブ・インクルージョン」の趣旨を踏まえた、人種・国籍・宗教・障害の有無・性別・性的指向・年齢等に関係なくすべての人が参加できるとともに、ユニバーサル対応に向けた様々なサポート体制を整えた公演及び体験講座等の実施	普及公演「バリアフリー能」	3月21日 1回	1回	点字による広報物、舞台触図、副音声、手話通訳、詞章の用意、触れる能面展示等各種サポートに加え、眼鏡型ウェアラブル端末20台とタブレット10台を貸出し、字幕配信を行いました。	【成果】 例年通り、さまざまな形でバリアフリーに取組み、広報物にも工夫をこらし、集客の一助となりました。公演後の意見交換会では、次回開催につながる貴重な意見をいただきました。	【評価できる点】 ・過年度からの充実したサポート体制の提供等を継続するだけでなく、新たに知的障害者向けの事前見学会を実施することや広報ちらしの見直しを行うなど、より良い事業の実施に向けた取組を積極的に行っていることを高く評価します。 ・券売率や入場者数についても目標を達成し、多くの来場者に向けて開かれた事業を行っていることが確認できました。
		□券売率	50%	74.8%	介助者チケット分を含めると94.1%	【課題】 知的障がい者の方へ現状以上に情報を届けることが課題と考えるため、意見交換会での御意見やさらに情報収集を行い、新たな広報の方法を模索します。	【改善が必要と考えられる点】 ・公演の情報だけでなく、障害等に応じて適切なサポートを行っている見学会について、より多くの方の参加に向けた取組が課題と考えます。 ・意見交換会での御意見の実現、障害者向けの見学会を含めた公演回数増加等、ユニバーサル対応のトップランナーとして、現状以上に積極的な取組について検討を進めることを期待します。
		□入場者数	244人	405人	券売好調により、入場者数も目標を大きく上回りました。	【成果】 親子で楽しむ公演。子どもが初めて観ても楽しめる狂言2曲と人間国宝の解説により狂言の面白さを伝えました。	【評価できる点】 ・過年度からの充実したサポート体制の提供等を継続するだけでなく、新たに知的障害者向けの事前見学会を実施することや広報ちらしの見直しを行うなど、より良い事業の実施に向けた取組を積極的に行っていることを高く評価します。 ・券売率や入場者数についても目標を達成し、多くの来場者に向けて開かれた事業を行っていることが確認できました。
		□視覚障がい者・聴覚障がい者向け事前見学会開催	各1回	視覚、聴覚 各1回(追加)	視覚4人(うち介助者2人)、聴覚5人、知的3人(うち介助者1人)	【課題】 知的障がい者の方へ現状以上に情報を届けることが課題と考えるため、意見交換会での御意見やさらに情報収集を行い、新たな広報の方法を模索します。	【改善が必要と考えられる点】 ・公演の情報だけでなく、障害等に応じて適切なサポートを行っている見学会について、より多くの方の参加に向けた取組が課題と考えます。 ・意見交換会での御意見の実現、障害者向けの見学会を含めた公演回数増加等、ユニバーサル対応のトップランナーとして、現状以上に積極的な取組について検討を進めることを期待します。
		□公演終了後の意見交換会	1回	1回	知的障がいについての意見交換会を実施しました。	【課題】 知的障がい者の方へ現状以上に情報を届けることが課題と考えるため、意見交換会での御意見やさらに情報収集を行い、新たな広報の方法を模索します。	【改善が必要と考えられる点】 ・公演の情報だけでなく、障害等に応じて適切なサポートを行っている見学会について、より多くの方の参加に向けた取組が課題と考えます。 ・意見交換会での御意見の実現、障害者向けの見学会を含めた公演回数増加等、ユニバーサル対応のトップランナーとして、現状以上に積極的な取組について検討を進めることを期待します。
	「クリエイティブ・チルドレン」の考え方に基づく、次代を担う子どもたち、その保護者、教育関係者等を対象とした施設内での能楽等の学習・体験機会、古典芸能に触れるきっかけの提供	講座「人間国宝・山本東次郎先生の狂言の時間」	8月5日 1回	1回	親子で楽しむ公演。子どもが初めて観ても楽しめる狂言2曲と人間国宝の解説により狂言の面白さを伝えました。	【成果】 両講座ともに、人間国宝・山本東次郎師のお話があり、分かりやすい内容が好評でした。上演中の子どもたちの反応もとてもよかったです。教員向け講座では質問も多数上がり、「狂言を授業で教える意義など、根本の話が聞けて良かった」という声がありました。	【評価できる点】 ・今年度からの新たな取組として、山本東次郎氏による「先生のための狂言教室」を実施し、狂言鑑賞の機会だけでなく、教員でも指導経験が少ない古典芸能を授業で扱うためのきっかけを提供したことを高く評価します。
		□券売率	65%	100%	学校関係者への広報と子ども料金500円を設定したことにより販売予定枚数は完売しました。	【課題】 より多くの子どもの参加を促すために、引き続き学校や児童施設等への協力を要請したり、子ども向けイベント広報の媒体等を利用したりして広く周知してゆきます。また、教員向けの講座でも教育委員会等をとらして教育関係者に広報し、参加を募ります。	【改善が必要と考えられる点】 ・「先生のための狂言教室」を機会とするなどにより、横浜市内を中心とした学校や教員等と連携し、若年層の市民等における横浜能楽堂の認知度向上や能楽を中心とした古典芸能へ関心を持つ機会提供に向けて取組むことを期待します。
		□入場者数	315人	447人	うち子ども入場者123人 券売好調により、入場者数も目標を大きく上回りました。	【課題】 より多くの子どもの参加を促すために、引き続き学校や児童施設等への協力を要請したり、子ども向けイベント広報の媒体等を利用したりして広く周知してゆきます。また、教員向けの講座でも教育委員会等をとらして教育関係者に広報し、参加を募ります。	【改善が必要と考えられる点】 ・「先生のための狂言教室」を機会とするなどにより、横浜市内を中心とした学校や教員等と連携し、若年層の市民等における横浜能楽堂の認知度向上や能楽を中心とした古典芸能へ関心を持つ機会提供に向けて取組むことを期待します。
		■子ども料金1人500円を設定	実施	実施	学校関係者への広報と子ども料金500円を設定したことにより販売予定枚数は完売しました。	【課題】 より多くの子どもの参加を促すために、引き続き学校や児童施設等への協力を要請したり、子ども向けイベント広報の媒体等を利用したりして広く周知してゆきます。また、教員向けの講座でも教育委員会等をとらして教育関係者に広報し、参加を募ります。	【改善が必要と考えられる点】 ・「先生のための狂言教室」を機会とするなどにより、横浜市内を中心とした学校や教員等と連携し、若年層の市民等における横浜能楽堂の認知度向上や能楽を中心とした古典芸能へ関心を持つ機会提供に向けて取組むことを期待します。
		特別講座「先生のための狂言教室」	8月5日 1回	1回	講座での経験を授業で子どもたちに伝え、古典芸能への興味につなげることを目的とし、教員及び教職課程学生を対象に初めて開催。	【課題】 より多くの子どもの参加を促すために、引き続き学校や児童施設等への協力を要請したり、子ども向けイベント広報の媒体等を利用したりして広く周知してゆきます。また、教員向けの講座でも教育委員会等をとらして教育関係者に広報し、参加を募ります。	【改善が必要と考えられる点】 ・「先生のための狂言教室」を機会とするなどにより、横浜市内を中心とした学校や教員等と連携し、若年層の市民等における横浜能楽堂の認知度向上や能楽を中心とした古典芸能へ関心を持つ機会提供に向けて取組むことを期待します。
子どもたちの感性、創造性を育み、意欲を発展させることのできるプログラムや継続性のある事業の実施	子ども狂言ワークショップ 入門編	3日間	3日間	夏休み中の小中学生を対象としたワークショップ。	【成果】 子どもたちも積極的に取り組む様子が見られ、保護者の方たちの満足度も高い事業となりました。卒業編では、稽古時間を選べるようにした結果、昨年より参加者が1名増え、発表会で披露する曲が4曲にもなりました。歴史ある横浜能楽堂の舞台で本格的な装束で成果を発表することにより、子どもたちに大きな経験と成長の場を提供できました。	【評価できる点】 ・開館以来継続している「子ども狂言ワークショップ」について、目標通り実施したことを確認しました。	
	□参加者数(小・中学生対象)	20人以上	25人	8/7-9実施	【課題】 今後も継続していく事業なので、広報の方法を工夫して、広く参加者を募集してゆきます。	【改善が必要と考えられる点】 ・子どもを対象としたワークショップについて、狂言だけでなく、古典芸能自体に関心がない子どもたちを継続的に取り込むための事業実施についても検討を進めてください。	
	子ども狂言ワークショップ 卒業編	10日間	10日間	舞台での発表を目標として入門編参加者のうち7人が参加。	【課題】 今後も継続していく事業なので、広報の方法を工夫して、広く参加者を募集してゆきます。	【改善が必要と考えられる点】 ・子どもを対象としたワークショップについて、狂言だけでなく、古典芸能自体に関心がない子どもたちを継続的に取り込むための事業実施についても検討を進めてください。	
	□参加者数(入門編の参加者対象)	6人	7人	1/10、16、25、2/6、16、22、3/6、13、20、29	【課題】 今後も継続していく事業なので、広報の方法を工夫して、広く参加者を募集してゆきます。	【改善が必要と考えられる点】 ・子どもを対象としたワークショップについて、狂言だけでなく、古典芸能自体に関心がない子どもたちを継続的に取り込むための事業実施についても検討を進めてください。	
	「横浜子ども狂言会」	1回	1回	卒業編からの5人が「いろはの会」とともに本舞台上で成果を披露。	【課題】 今後も継続していく事業なので、広報の方法を工夫して、広く参加者を募集してゆきます。	【改善が必要と考えられる点】 ・子どもを対象としたワークショップについて、狂言だけでなく、古典芸能自体に関心がない子どもたちを継続的に取り込むための事業実施についても検討を進めてください。	
	□子ども狂言ワークショップ卒業編からの参加者数	5人	7人	稽古時間を選べるよう柔軟に対応した結果、7人の参加がありました。	【課題】 今後も継続していく事業なので、広報の方法を工夫して、広く参加者を募集してゆきます。	【改善が必要と考えられる点】 ・子どもを対象としたワークショップについて、狂言だけでなく、古典芸能自体に関心がない子どもたちを継続的に取り込むための事業実施についても検討を進めてください。	
	□OB・OG組織「いろはの会」の参加者数を含めた参加者数	15名以上	25人	いろはの会からの参加者が多く、目標を上回りました。	【課題】 今後も継続していく事業なので、広報の方法を工夫して、広く参加者を募集してゆきます。	【改善が必要と考えられる点】 ・子どもを対象としたワークショップについて、狂言だけでなく、古典芸能自体に関心がない子どもたちを継続的に取り込むための事業実施についても検討を進めてください。	
□入場者数	100人	260人	天候も良く、花見の時期と重なり例年より来場者が増えました。	【課題】 今後も継続していく事業なので、広報の方法を工夫して、広く参加者を募集してゆきます。	【改善が必要と考えられる点】 ・子どもを対象としたワークショップについて、狂言だけでなく、古典芸能自体に関心がない子どもたちを継続的に取り込むための事業実施についても検討を進めてください。		
市内の子どもたちに対して文化芸術に触れる機会を提供するため、「横浜市芸術教育プラットフォーム」にコーディネーターとして参画し学校プログラムを実施	□「横浜市芸術教育プラットフォーム」学校プログラム「狂言・古典芸能を軸にコーディネーターを行う」	5校実施	5校実施	舞岡小学校、小机小学校、荏田南小学校、金沢小学校、牛久保小学校	【成果】 いずれも狂言大蔵流山本東次郎家の狂言をコーディネートし、小学校の教科書に掲載されている狂言「柿山伏」鑑賞を中心にプログラムを提供しました。	【評価できる点】 ・目標通り、「横浜市芸術教育プラットフォーム」へコーディネーターとして参画し、能楽堂以外の場での質の高い狂言鑑賞に協力したことを確認しました。	
					【課題】 担当教諭とも連携して、児童数や授業の進捗状況、児童の特質等、各学校の状況に応じたプログラムの進行を工夫してゆきます。	【改善が必要と考えられる点】 ・社会的包摂の取組として、より多くの子どもたちが古典芸能に触れる機会提供を引き続き行うことを期待します。	

平成29年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

1 能楽等の継承・振興・発展に向けた次世代育成、愛好者の拡大	6	能楽等の次世代の育成に向けて、若手の演じ手や公演等の作り手の積極的な登用	■通常の公演企画を通じて実力ある若手の演じ手を起用	実施	実施	—	企画公演の新作公演で若手の演じ手を起用し、今後の能楽等の継承と振興に寄与できるよう努めました。	【成果】 芸の縁「山田流と宝生流」で新作箏曲「小町」でシテ方宝生流二十世宗家 宝生和英を登用し、若手の演じ手育成に努めました。  【課題】 演目全体のバランスをみながら若手を登用することが課題です。	【評価できる点】 ・若手の演じ手について、起用されていることを確認しました。  【改善が必要と考えられる点】 ・公共の能楽堂として能楽等の古典芸能の振興を行うにあたり、引き続き流派等のバランスをとった上で、現状以上に多様な演じ手や作り手等の積極的な登用を求めます。
	7	古典芸能の魅力や興味や関心に応じて体験することのできるワークショップや講座等の開催	講座「初めての能楽教室」	1回	1回	B	7/1募集開始、9/15締切、11/7教室スタート、2/18発表会	【成果】 お稽古の機会が得にくい初心者向けの教室を平日夜間に開催し、若い世代が能楽に親しむ機会を提供できました。10回の稽古ののち34人が舞台で稽古の成果を披露しました。謡仕舞の定員は目標20人でしたが、講師である能楽師と相談し、じっくり稽古をつけられる人数として12人となりましたが、17人の応募がありました。そのうち受講は14人でした。  【課題】 今後も継続して実施してゆくことから、プログラムを工夫し新規受講者及びリピーターを確保してゆくことが課題です。	【評価できる点】 ・目標通り、比較的若年層の初心者等が能楽等を実際に体験することのできる講座の実施を確認しました。  【改善が必要と考えられる点】 ・講座を継続して実施するのみでなく、さらなるプログラムの充実や参加者を増やす仕組みについても、検討を進めてください。
			□参加者数 謡・仕舞20人、能管12人、太鼓12人	合計44名	合計37人	C	参加者の年代:10代5%、30代19%、40代32%	【成果】 検討を重ねた結果、ワークショップ受講中から終了後3か月まで第二舞台の利用料金が半額に、研修室2室の利用料金が1室分の料金となる「応援割」の案を作成しました。平成30年度4月中に市へ減免に係る手続を行い、5月から開始する予定です。  【課題】 初めての取組みなので、今後広く広報し利用実績につなげることが課題です。	【評価できる点】 ・新規のリピーターの獲得に向けて、割引制度導入の積極的な検討を行ったことを高く評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・割引制度の周知を行うとともに、実績の分析を行い、市民の古典芸能に関する活動サポートという目的の確認を確実に行ってください。
8	愛好者の定着に向けた古典芸能に触れる際や活動にあたってのサポート・相談体制を整え、継続的に技術を研鑽できる機会の提供	■横浜能楽堂主催ワークショップの修了者が継続的な稽古を支援するため、施設利用料の減免制度「応援割」新設を検討	実施	検討実施	—	ワークショップ受講中のお稽古、終了後の継続利用を促すプラン「応援割」を検討しました。H30.4に市に必要な手続きを行い、H30.5から開始します。	【成果】 能の見巧者から初心者まで対象として一流の演者による名曲を上演し、目標を超える来場がありました。また、内容についても来場者、評論家からの評価が高いものになりました。  【課題】 来場者の年代が高めで、若い層が少ない。今後も来場者を維持していくためにも、若い層へ能楽の魅力を知ってもらうアプローチが必要と感じます。	【評価できる点】 ・芸術性の高い能と狂言の魅力を発信する公演を実施したことを確認しました。  【改善が必要と考えられる点】 ・公演を通じて生じた課題に対して、PDCAを着実に回し、事業目的の達成や課題の解決に積極的に取り組むことを期待します。	
2 能、狂言その他の古典芸能の振興・発展	1	本舞台・第二舞台を活用した公演等の開催	「特別公演」	5月20日 1回	1回	B	紫綬褒章受章の浅見真州による能の名曲「江口」と人間国宝・野村萬による狂言「舟渡賀」を上演。	【成果】 能の見巧者から初心者まで対象として一流の演者による名曲を上演し、目標を超える来場がありました。また、内容についても来場者、評論家からの評価が高いものになりました。  【課題】 来場者の年代が高めで、若い層が少ない。今後も来場者を維持していくためにも、若い層へ能楽の魅力を知ってもらうアプローチが必要と感じます。	【評価できる点】 ・芸術性の高い能と狂言の魅力を発信する公演を実施したことを確認しました。  【改善が必要と考えられる点】 ・公演を通じて生じた課題に対して、PDCAを着実に回し、事業目的の達成や課題の解決に積極的に取り組むことを期待します。
			□券売率	80%	98%	A	一流の演者による名曲の上演が話題になりました。	【課題】 来場者の年代が高めで、若い層が少ない。今後も来場者を維持していくためにも、若い層へ能楽の魅力を知ってもらうアプローチが必要と感じます。	【改善が必要と考えられる点】 ・公演を通じて生じた課題に対して、PDCAを着実に回し、事業目的の達成や課題の解決に積極的に取り組むことを期待します。
			□入場者数	388人	441人	A	券売好調により、入場者数も目標を上回りました。	【課題】 来場者の年代が高めで、若い層が少ない。今後も来場者を維持していくためにも、若い層へ能楽の魅力を知ってもらうアプローチが必要と感じます。	【改善が必要と考えられる点】 ・公演を通じて生じた課題に対して、PDCAを着実に回し、事業目的の達成や課題の解決に積極的に取り組むことを期待します。
2	能・狂言等の継承性と創造性のバランスに配慮しつつ、横浜能楽堂独自の創造的な公演や古典芸能の多彩な公演の実施	横浜能楽堂+ジャパン・ソサエティー共同制作公演「ダンス「SAYUSA-左右左-」」	9月2日 1回	1回	B	ドナルド・キーン原案指導・協力、能楽囃子の大倉源次郎、藤田六郎兵衛、そしてダンサーの笠井毅、鈴木ユキオ、中村恩恵、能楽子方の長山凜三が出演し、コンテンポラリーダンス「SAYUSA-左右左(さゆうさ)-」の世界初演を行いました。それに先立ちドレスリハーサルを9/1に行いました。	【成果】 能舞台の新たな空間的な可能性と魅力を引き出すため、「翁」と能「羽衣」に流れる思想を、ダンスの文脈に落とし込み、三人のダンサーの身体と能の囃子・謡の技法を通じて表現された作品は非常に刺激的なものでした。通常能楽堂に足を運ばないダンスファンの集客ができました。  【課題】 今回は横浜赤レンガ倉庫1号館の広報協力の元、広報活動を行いました。今後は横浜能楽堂独自の情報を元に広報活動を進めてゆきます。	【評価できる点】 ・能楽の可能性の広さと横浜能楽堂の企画力を国際的に発信する事業を実施したことが確認できました。 ・指定管理者内のノウハウを活用し、古典芸能の愛好者だけでなく、コンテンポラリーダンス、舞踊をはじめとした、様々な芸術のファン層へ横浜能楽堂の魅力や伝える機会の提供に繋がったことを評価します。	
		□券売率	65%	100%	A	ダンスとのコラボレーションにより幅広く集客できたこと、横浜赤レンガ1号館の広報協力を得られたことなどから販売予定枚数を完売しました。	【課題】 今回は横浜赤レンガ倉庫1号館の広報協力の元、広報活動を行いました。今後は横浜能楽堂独自の情報を元に広報活動を進めてゆきます。	【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。	
		□入場者数	315人	452人	A	ダンスの専門家の来場も多くありました。	【課題】 今回は横浜赤レンガ倉庫1号館の広報協力の元、広報活動を行いました。今後は横浜能楽堂独自の情報を元に広報活動を進めてゆきます。	【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。	
3	能楽等の鑑賞者を広げ、愛好者の定着を図るため、能及び狂言等の基本知識や曲の見どころ・背景などを分かりやすく伝える等の創意工夫を凝らした公演の定期開催	企画公演「芸の縁 山田流と宝生流」	9月18日 1回	1回	B	山田流と宝生流のつながりを示しながら、両者が融合した新作「小町」の上演のほか、箏曲「長恨歌曲」と能「楊貴妃」を上演しました。同時期に名人たちの縁の品を集めた特別展示を行いました。	【成果】 公演には能楽愛好者、箏曲愛好者が多く来場し、それぞれの芸能の魅力を感じてもらうことができました。また展示を通じて両流の歴史やその繋がりを説明し、企画内容をより深く理解してもらうことができました。  【課題】 公演開催前に箏曲関係の大きな公演や宝生流の海外公演などがあつたため、新聞・雑誌など既存の媒体への露出が少なくなりました。今後、ネットなど広報範囲の拡大を検討してゆきます。	【評価できる点】 ・能楽とその他の芸術分野との関連性について、横浜能楽堂ならではの視点により企画し、多くの方が来場する公演を実施したことを評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。	
		□券売率	80%	96%	A	事前の広報努力により券売率が上がりました。	【課題】 公演開催前に箏曲関係の大きな公演や宝生流の海外公演などがあつたため、新聞・雑誌など既存の媒体への露出が少なくなりました。今後、ネットなど広報範囲の拡大を検討してゆきます。	【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。	
		□入場者数	388人	426人	A	券売好調により入場者数も目標を上回りました。	【課題】 公演開催前に箏曲関係の大きな公演や宝生流の海外公演などがあつたため、新聞・雑誌など既存の媒体への露出が少なくなりました。今後、ネットなど広報範囲の拡大を検討してゆきます。	【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。	

平成29年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

2 能、狂言その他の古典芸能の振興・発展	4 文化専門施設として蓄積した高度かつ専門的なノウハウを発揮し、横浜や横浜能楽堂ならではの発信性ある魅力的な公演・事業等の実施	企画公演「能の花 能を彩る花」	10月28日、11月23日、1月13日、2月10日、3月10日 全5回	5回	B	池坊555周年にちなみ花に関する能を連続上演。4世池坊専好が舞台を花で彩る大型企画。	【成果】 能楽以外の分野と連携した公演を実施することで、いけばな、舞踊、アニメーションなど幅広いファン層へ横浜能楽堂の専門性や企画力を発信できました。また、日台レジデンスでは、12月の台湾レジデンスに職員が立ち会い日台交流と発信力強化につなげました。  【課題】 企画公演「能の花 能を彩る花」では、生の花を用いるという演出の特別感を伝えきれず、1公演あたりの平均来場者が目標を下回りました。能・狂言に馴染みのない人が増えている中で、公演の魅力を伝えられるよう、企画内容や広報手段について工夫していきます。また、「能の五番 朝薫の五番」では、5回シリーズの第4回ということでリピーターも増えてきてはいますが、同じ能の演目の上演が昨年度もあつたことなどから目標来場者数を下回りました。次回は最終回となるので、企画の有意性を周知して集客を図ります。	【評価できる点】 ・古典芸能の専門文化施設として、創造性のある公演を積極的に実施し、高い券売率を維持していることを評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・「能の花 能を彩る花」などの連続的な公演については、複数回のシリーズとした企画意図を伝えることなどにより魅力を発信していく必要があると考えます。
		□券売率	85%	88.5%	B	概ね目標どりの券売でした。		
		□入場者数	413人/回(全5回2,065人)	390人/回(全5回1,953人)	B	総入場者数は若干目標を下回りましたが、概ね目標どりでました。		
		企画公演 横浜能楽堂・伝統組踊保存会提携公演「能の五番 朝薫の五番」第4回	2月4日 1回	1回	B	第4回「放下僧」と「二童敵討」能「法下僧」味方玄(親世流) 組踊「二童敵討」東江裕吉、新垣悟 能と組踊の類曲を上演する連続公演の第4回。ユネスコ世界無形遺産に指定されている能と組踊を比べて鑑賞できる公演。		
		□券売率	80%	85.7%	B	幅広いファン層にアピールすることで、目標を若干上回りました。		
		□入場者数	388人	385人	B	概ね目標どりの入場者数でした。		
		日本・チェコ国交回復50周年記念公演「川本喜八郎が見た世界、描いた世界」1回	実施時期未定 1回	1回	B	日本・チェコ国交回復60周年を記念し、チェコで巨匠イー・トルンカに学んだ人形アニメーション作家・川本喜八郎のアニメーション作品「火宅」と、その根拠となった能「求塚」、そしてチェコの人形劇団であるアルファ劇団を招聘性手の新作人形劇「トルンカのサーカス」を上演しました。		
		□券売率	80%	99%	A	他分野と連携することで新たな顧客が開拓でき、販売予定枚数をほぼ完売しました。		
		□入場者数	388人	374人	B	若干目標を下回りましたが、概ね目標どりの入場者数でした。		
		台湾レジデンス事業 横浜でのレジデンスによる制作活動	実施時期未定 1回	2回	A	8/27-31に実施。12/8-15に台湾国交劇団でのレジデンスも実施され、能楽堂から職員が立ち会いました。		

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
Ⅲ文化事業目標②	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
3 能楽堂自体の魅力の発信	①貸館営業、広報営業担当の人員配置 ②能舞台の文化的価値や日本の伝統文化の発信、おもてなしの拠点となる文化プログラムやユニークメニュー等の企画、多言語対応を含む受入を行うことによる、横浜や横浜能楽堂の魅力や認知度の向上 ③観光・宿泊プラン、国際会議等、MICE と連携し、アフターコンベンション等への施設提供	□トラベルマート等の商談会視察	1回	6回	A	6/15第1回MICEワーキング会議、6/23YCVB第1回賛助会員事業推進協議会、7/11インバウンド会議@みなとみらい21、8/3横浜国際インバウンドフォーラム、9/6「外国人観光客を呼び込むホスピタリティ研修」	【成果】 貸館営業、広報営業担当職員を配置し、発信力強化をはかりました。特に企業や近隣へのアプローチは着実に実行できており、いくつかの項目で目標を上回り成果をあげています。  【課題】 2020年にむけた多言語化やサインの充実、ユニークメニューの取組みのさらなる充実が今後の課題です。ユニークメニューについては、施設のパーティ利用など具体的なプランを検討中です。平成30年度中に具体化できるよう進めます。	【評価できる点】 ・第3期指定管理期間の重点的な目標の一つである、貸館や広報等の促進にあたり、初年度から、適切に人員配置を行い、見学会の拡充やMICEとの連携等に取組んでいることが確認できました。 ・外国の方などの御来場に向けて、過年度からの取組である英文解説の用意等だけでなく、英語版のチケットサイトを設けるなど、新たな取組を行ったことについても評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・ラグビーワールドカップ2019™や東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、さらに様々な来場者が想定されることから、英語以外を含めた多言語化の拡充や多様な施設利用についての検討等を積極的に行うことを期待します。
		□提案可能な日本文化体験プログラムの作成	1本	1本	B	9/15「一日伝統文化体験ツアー」DMO丸の内にて紹介、12月同ツアーに関するホテルヒアリング6件、1月同ツアーに関するホテルヒアリングまとめ		
		□提案可能な公演鑑賞パッケージの作成	1本	1本	B	8/1MICE振興課へパッケージ案を提案しました。		
		□大規模合コン「街コン」開催	2回	2回	B	8月「横浜狂言堂」で『街コン』、11月「能の花 能を彩る花」で『大人コン』を実施しました。		
		□近隣ホテルとのお食事付チケットプラン	1公演	3公演	A	「芸の縁 山田流と宝生流」1公演、「能の花 能を彩る花」2公演、計3公演で実施しました。		
		■英語接客が可能なスタッフは「ENGLISH OK!」パッチ着用	実施	実施	—	年間を通じてパッチを着用し海外からのお客様に対応しました。		
		■能・狂言の英文解説をすべての演目で用意	実施	実施	—	すべての演目で英文解説を用意したほか、7/2「人間国宝が案内する能の名曲」ではタブレットによる解説も実施しました。		
		■館内サインのピクトグラム化の検討	実施	実施	—	お問い合わせの多いトイレ、2階への動線を中心に予算確保を含め検討を継続します。		
		■インターネットチケットサイトの英語版導入	実施	実施	—	4/9発売「横浜狂言堂」チケットから英語での申込を開始しました。		
		■(公財)横浜観光コンベンションビューローとの情報共有によるプロモーションの推進 (人員配置については、Ⅱ 3 11のとおり)	実施	実施	—	8/25横浜コンベンションビューロー主催の「第2回MICEワーキング」を実施。12団体14人の参加がありました。		

平成29年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%以内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

4 能楽等に関する地域等との連携事業	6	第65回横浜能(横浜能楽連盟との共催)	6月17日 1回	1回	B	観世流のシテ方で横浜市内在住の能楽師・梅若紀彰による能「養老」と和泉流野村又三郎の替間「薬水」を上演しました。	【成果】 横浜能楽連盟と共催で横浜能を実施することで、地元能楽愛好者とのつながりを深めました。かもんやま能は、ふるさと西区推進委員会(西区役所)と協力して、チケット販売や広報を行い、地域住民を中心とする市民の芸術活動参加への普及に貢献できました。施設見学会はさくらフェスタ、山の日の集客が多く、幅広い層に施設を知っていただく機会となりました。その他、かもめSCHOOL、学校との連携等、年間を通じて地域との連携を達成できました。  【課題】 横浜能での横浜能楽連盟との連携は今後も継続します。かもんやま能は、今後継続する場合、西区役所との連携の仕方を見直し、より効率的に事業を進めていけるよう改善します。施設見学会も継続し、近隣との連携をはかりながら情報発信に努めます。  【評価できる点】 ・「横浜能」や「横浜かもんやま能」との連携を継続し、市民主体の能楽振興への協力を継続していることが確認できました。 ・区役所等からの協力依頼についても、積極的な協力や受入を行い、横浜能楽堂の地元を中心に施設を知ってもらうための取組を行っていることを確認しました。 ・職場体験やインターン生の受入、各学校の学習サポートを行うなど、次世代育成に繋がる取組を積極的にを行っていることを評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・現在の取組にとどまらず、地元企業との連携、横浜全域全体を見据えた地域や学校との連携等、事業展開の拡大を期待します。
		□券売率	80%	100%	A	横浜能楽連盟との連携により販売予定枚数を完売しました。	
		□入場者数	388人	449人	A	券売好調により入場者数も目標を上回りました。	
		□中・高校生の職場体験受入	2校	中学生2校 インターン1名	B	5/12 中学生5名、8/5、7 高校生1名、8/5-9/2 大学生インターンシップ1名、9/1-2大学生インターンシップ1名	
		□小・中・高校の見学・学習サポート	3校	小中校 6校 大学 2校	A	小中校:6/30横浜市立本町小学校31名、9/7横浜市立本町小学校30名、10/26横浜市立本町小学校30名、11/7桜台小86名、11/8東汲小94名、11/29鶴見養護学校54名 大学:5/9沖縄県立芸術扶科大学15名、10/19東京藝大大学院1名	
		■児童・生徒向け見学パンフレットの作成 ■「横浜かもんやま能」(ふるさと西区推進委員会、西区役所との共催 事業運営・広報の協力)	実施	実施	—	8月:カラーパンフレット完成	
		10月15日 1回	1回	—	10/15実施 入場者数437人 能「弱法師」、狂言「殺大名」を上演。広報協力、チケット販売代行、当日進行を担いました。		
		□施設見学会 月1回開催(うち1回は8月11日山の日の祝日に開催し、児童・生徒や働く人が参加しやすい日程を新設)	年間12回以上実施	21回	B	4/1さくらフェスタ特別見学会161名、4/13施設見学会8名、かながわ健生クラブ40名、5/11施設見学会29名、5/26MICE振興課3名、財団新採用者3名、6/6オルガン1ドルプラス特別見学会18名、6/8施設見学会22名、7/13施設見学会19名、8/11「山の日スペシャル」施設見学会①140名②84名、9/14施設見学会27名、9/26MMH新採用職員6名、10/12施設見学会21名、10/24大分市企画部視察1名、11/9施設見学会21名、12/6東京事務所所長12名、12/22金沢能楽美術館視察2名、1/27建築保全公社募集見学会56名、2/9横浜10大ニュース応募者見学会12名、3/8施設見学会7名、3/25「春の見学会」①94名②61名	
		□施設見学会 参加者数	各回15人以上	40人/回	A	山の日スペシャル、さくらフェスタに合わせた春の見学会に多くの集客があり、目標を大きく上回りました。	
		□近隣住民へのちらし(利用案内含む)配布	年2回	年4回	A	8/11クオオス、グランメゾン、紅葉坂レジデンスに見学会チラシ置き、9/5ザ・パークハウス伊勢町モデルルームに特別展チラシ掲示、2月クオオス、紅葉坂レジデンス、朝日カルチャーセンターに2018狂言堂、能の花、バリアフリー能、企業向け見学会チラシ置き、3月グランメゾンに2018狂言堂、能の花、バリアフリー能、春の見学会ちらし掲示	
		□みなとみらい21・さくらフェスタ2017への参加	1回	1回	B	施設見学会4/1 161人参加、呈茶席72人。	
		■「野毛まちなかキャンパス」実行委員会との協働	実施	実施	—	10/30「横浜能楽堂探訪～140年余りの歴史を持つ関東最古の能舞台～」を開催。受講生18人。	
□西区 町歩き企画への協賛・共催	1回以上	4回	B	4月 まち歩きミニ見学会、3月末～6月 春のまち歩きキャンペーン「にしまろちゃんのふらり川柳を探せ！」参加、11月 西区民まつり 情報科学専門学校と「ハコス」コンテンツ協力、12月 広報よこはま西区版お正月プレゼント協賛			
■WEB ページ、ツイッターの多言語化を実現	実施	実施	—	WEBページの多言語化を実施しました。			
5 情報提供及び渉外、広報・プロモーション活動	7	□WEB ページアクセス数 ※新基準による	トップページ 7,500/月 ページビュー 33,000/月	トップページ 10,501/月 ページビュー 54,548/月	A	ブログ22回更新(前年比+7回)	【成果】 鮮度の高い情報発信を、ツイッターを中心に情報提供を行いました。特に貸館での舞台利用の様子をツイッターで実況中継的に紹介し施設利用方向として活用しました。ニコニコ動画のライブ配信普段能楽堂に足を運ばない新たな層にもアプローチすることができました。視聴者同士でコメントをしながら視聴できるという新しい狂言の鑑賞スタイルを提供でき、気軽に狂言を楽しめる場として活用できました。また、平成28年度に作成した施設のPR動画を館内で流す取組みも行いました。  【課題】 PR媒体として動画配信は欠かせないものとなってきています。今後も視聴者にとって魅力的なコンテンツは何かなど、館内で意見交換しながら取り組んでゆきます。  【改善が必要と考えられる点】 ・主催公演等の映像等のアーカイブ化については、実現に向けて検討を継続することを求めます。 ・事業や横浜能楽堂に関する情報発信に加え、能楽や能楽堂そのものの魅力、能楽等の古典芸能に関心を持つきっかけの提供等に繋がる広報を実施することにより、古典芸能のすそ野の拡大に向けて取り組むことを期待します。
		□ツイッターフォロワー数	2,100人	2,359人	B	3月末現在 296ツイート/月(前年比+127)	
		□年間スケジュール印刷部数	年10,000部	年10,000部	B	計画どおり印刷しました。	
		□3か月の行事予定「橋がかり」印刷部数	毎月10,000部	毎月10,000部	B	計画どおり印刷しました。	
		□横浜能楽堂友の会「かもん会」会員数	800人	749人	B	3月末現在	
		□広報資料送付先	新聞・雑誌・テレビ等のマスコミ約100社	新聞・雑誌・テレビ等のマスコミ約100社	B	計画どおり送付しました。	
		□新聞、雑誌の掲載	年間24本	年間50件	A	個別記事でインタビューなどに基づいたものとしています。	
		□ニコニコ動画による「横浜狂言堂」のライブ配信	5公演	5公演	B	7/9、8/13、10/8、12/10、1/14	
		■1F書架の閲覧について来館者へ周知	実施	実施	—	7/9:195人、8/13:204人、10/8:144人、12/10:800人、1/14:203人	
		■1F書架の閲覧について来館者へ周知	実施	実施	—	ツイッターを活用するなど周知に努めました。	
		■電話やメールでの問い合わせに対して迅速に回答	日本語及び英語に対応	日本語および英語に対応	—	WEBページにお問い合わせフォームを掲載し質問・ご意見を受けました。宛先はグループメールアドレスで職員全員が確認できるようにし、担当者から迅速に回答しました。	
		■公演・講座記録についてプログラム、映像に分けて整理し、アーカイブについて検討を開始	実施	実施	—	整理の分類方法の検討を進めました。	

平成29年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

6 館内展示及び収蔵品の管理の実施	8	①常設展の開催 ②特別展の開催 ③収蔵品の管理 ④展示の和文・英文表記の充実	6 館内展示及び収蔵品の管理の実施	年2回以上	3回	B	3回(5月、10月、3月)	【成果】 特別展は、過去の名人たちの縁の品を通じて、山田流・宝生流の歴史を伝えることができ、企画公演の内容への理解を深めることができました。特に山田流の名人について振り返る展示はこれまでなく、筆曲関係者から高い評価を得ました。また、新しい取組みとして事業担当のプロデューサーによるギャラリートークを実施し、展示の理解をより深める機会を提供できました。  【課題】 特別展は、流派の歴史などについての説明を加えたり、絵画や工芸品などを展示するなど初心者でも楽しめる構成を心掛けましたが、企画公演と連携させた展示ということもあり、やや専門的な内容となりました。企画性だけでなく普及性を両立させた展示を企画していきたいと思います。	【評価できる点】 ・収蔵品等を適切に管理するとともに、見学者が能楽等の魅力を知る手段となる展示の実施を継続していることを確認しました。 ・例年通り、事業と連携した特別展を実施することだけでなくギャラリートークを実施することにより、展示や事業企画内容をより多くの方に知ってもらう機会を提供したことを評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・インバウンド対応等として、展示内容の多言語化の拡充などについても、引き続き検討をしてください。
			□常設展 観覧者数	4,500人	6,308人	A	6,308人		
			□特別展「芸の俳 山田流と宝生流の名人たち」開催	1回	1回	B	開催期間8/26-10/9(休館日除く43日間) ギャラリートーク 9/14参加者15人 10/1参加者10人		
			□特別展 観覧者数	3,000人	3,678人	A	8月:40人、9月:2,641人、10月:997人		
			■収蔵品を適切に管理	実施	実施	—	貴重な装束や能面等の収蔵品を、業務の基準に基づき適切に管理しました。8/11に装束の虫干しを実施しました。		
			■常設展、特別展の英文表記の実施	実施	実施	—	キャプション、解説パネルの英文表記を実施しました。また、特別展(10月)では挨拶パネルの英文表記も実施しました。		
7 その他文化事業に関する取組	9	①外部専門家(能楽関係者、研究者、文化団体、大学等)との協力体制・連携	□一般社団法人 伝統組踊保存会との提携公演実施(Ⅲ① 2 4に記載)	1回	1回	B	2/4「能の五番 朝薫の五番」	【成果】 外部専門家と連携することにより、より深く能楽堂の専門性を発信できました。あわせて他分野専門機関との連携も実施し、通常能楽堂に足を運ばないファン層の集客ができました。  【課題】 専門性を維持しつつ、幅広く集客できるよう広報を工夫し、引き続き継続してゆきます。	【評価できる点】 ・能楽等に限らず、様々な専門家と連携することにより、事業や施設運営の質の向上、様々な来場者の獲得に取り組んでいることが確認できました。  【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。
			□横浜国立大学教育人間科学部との能楽研究教材作成協力	1公演	1公演	B	7/2普及公演「人間国宝が案内する能の名曲」		
			□JAPAN SOCIETY(ニューヨーク)との提携公演(Ⅲ① 2 2に記載)	公演2回	公演2回	B	10/13、14 JAPAN SOCIETY(ニューヨーク)「SAYUSA」提携公演		

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 利用料金の考え方と具体的な料金設定、支払方法や割引料金・減免等の運用方法の考え方	1	①適切な料金設定 ②利用状況に合わせた支払方法 ③条例及び施行規則に基づく減免等の運用	■学校鑑賞会利用における半額減免を導入	実施	実施	チェック 将来の能楽鑑賞層や次世代育成につなげるため、横浜市内に限らず小・中・高校による貸館利用について半額減免を実施しました。	【成果】 学校による見学会が8件(参加者合計340人)ありました。また、平成30年4月に学校鑑賞会利用を1件受け付けました。  【課題】 次世代に能楽堂の魅力が伝えられるよう、今後もPRに努め、実績につなげたいと思います。	【評価できる点】 ・条例等に基づき、適切に利用料金の設定・運用をおこなっていることを確認しました。 ・横浜市内以外の学校等へも減免の対象範囲を拡大し、貸館の促進や次世代育成の取組を行っていることを評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。
			■児童、生徒、学生の見学会の全額減免(料金設定・支払方法等は、Ⅱ 1 1のとおり)	実施	実施	— 将来の能楽鑑賞層や次世代育成につなげるため、横浜市内に限らず小・中・高校などの教育機関による見学会の全額減免を実施しました。実績8件。		
2 指定管理料のみに依存しない収入構造	2	①自主事業収入・利用料金収入の安定的な確保 ②助成金、寄付金の確実な獲得 ③協賛金収入の獲得 ④利用料金収入の安定的な確保 ⑤貸館における友の会会報へのちらし封入サービス、主催公演パンフレットへのちらしはさみこみサービス等の提供 ⑥貸館公演におけるチケット作成代行、販売代行サービス等の提供 ⑦撮影料金の設定 ⑧オリジナル商品の開発及び販売 ⑨事業収支の健全性の基準設定及びそれに基づく適切な計画	□利用料金収入	16,100千円	14,395千円	C 利用案内の周知を工夫しましたが、目標に達しませんでした。	【成果】 利用料金収入は目標より▲1,705千円下回りました。今後、指定管理料のみに依存しない収入構造とするため、貸館利用促進をはかり、利用料金収入を上げる必要があるため、あらたな料金プランを検討しました。助成金は目標より▲14,416千円下回りましたが、公演券売努力と事業費削減等により収支に影響はませんでした。  【課題】 平成30年5月から新たな貸館料金プランとして「初めての朝割」「初めてのU25割」「応援割」の3種を開始します。これらの広く周知し実績につなげます。助成金については館内の情報交換を密に行い、効果的に活用できるような事業を実施します。	【評価できる点】 ・指定管理料以外の収入等の確保について、目標や提案内容の実現に向けて、検討を進めていることが確認できました。  【改善が必要と考えられる点】 ・利用料金収入の目標未達については、現在取り組んでいるアフターコンベンションやユニークベニュー等を含めた貸館利用の促進の働きかけを継続し、利用率と一体で向上するよう、PDCAを回して取り組んでください。 ・文化庁等の助成金だけでなく、企業との連携等を進め、協賛金等の確保についても検討を進めてください。
			□文化庁等の外部資金獲得	35,625千円	21,209千円	C 文化庁助成金 21,149千円(申請額42,509千円、交付決定額26,600千円) 寄付金収入 50千円 協賛金収入 10千円		
			■貸館の手引きにより、ちらし封入サービス、チケット作成、販売代行サービスの提供の周知を図る	実施	実施	— 貸館打合せ時に情報提供しています。		
			■撮影料金の設定を検討	実施	実施	— 使用条件などの整理とあわせて検討中です。		
			■オリジナルショップ商品の開発検討	実施	実施	— 現在のオリジナル商品とのバランスを考えて検討中です。		
			■限られた経営資源を適切に配分するとともに外部資金を積極的に導入することで経営を安定化し、施設で収支バランスをとる	実施	実施	— 経費削減をはかるとともに、助成金獲得等により収支均衡を目指しました。		
3 経費削減等効率的運営の努力	3	①発注・事務処理、施設・設備管理等の留意による経費削減等効率的運営の努力 ②適切な人材配置及び超過勤務の削減及び職員のワークライフバランスを図ることによる人件費削減の努力	■ちらし作成枚数の精査、不要不急の支出の抑制を行う	実施	実施	— 公演ごとの部数を精査して作成しました。支出についても案件ごとに必要性を検討し抑制に努めました。	【成果】 目標どおり実施しました。  【課題】 引き続き経費削減に努めるとともに、職員のワークライフバランスをはかりながら超過勤務の削減及び人件費削減の努力を継続します。	【評価できる点】 ・経費削減に向けて、必要性とのバランスをとりながら取り組んでいることを評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き、費用対効果を検証して、効率的な施設運営を行ってください。
			■業務の効率化に努め、超勤時間のコントロールを行う	実施	実施	— 平均14.2H/月		

平成29年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
その他	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
1						【成果】 【課題】	【評価できる点】 【改善が必要と考えられる点】

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
1						<p>指定管理第3期の初年度は、開館以来の目標である「敷居の低い能楽堂」への継続的な活動とともに、第3期提案内容の達成に向けスタートアップをはかりました。事業については発信性の高い企画公演「能の花 能を彩る花(全5回)」を中心に、鑑賞者の裾野を広げる普及公演・講座の開催および大きな注目を集めたダンスと能楽囃子とのコラボレーション「SAYUSA-左右左-」や、「川本喜八郎の世界」で人形劇・人形アニメーション・能を見せる公演を行うなど、積極的かつユニークな事業展開を行いました。企画事業全般で、券売率、来場者数ともに目標を上回った公演も多く、他ジャンルとの連携や連携展示やギャラリートークなど、新しいファン層の開拓にも取り組みました。また、定着している「横浜狂言堂」や「バリアフリー能」を中心に普及に努め、障がい者との意見交換会など、今後の改善につなげる取組みも行いました。運営面では、能楽の専門施設として伝統と格式を守りつつ施設の利用促進に取組みました。貸館営業の強化を人管理体制も含めて取り組み、利用促進の減免制度やユニークメニューについて調査検討を行いました。これらは平成30年度に具体化してゆきます。また近隣マンション・モデルルームへのちらし配布、地域イベントと連携した施設見学会や施設周知を目的とした「和のワークショップ」シリーズを新たに開催するなど、開かれた能楽堂を目指す一歩としました。また、Wi-Fiを活用したクレジットカード等決済サービスの開始、来館見学者へのタブレットガイド提供など新たなサービスの提供にも取り組んでいます。施設管理については、全ての来館者に「安心」と「安全」を提供できるよう、設備の予防保全に努めました。横浜市による本舞台舞台モニター改修工事が行われ、本舞台利用時の利便性が大幅に高まりました。また防火防煙シャッターの安全工事の実施、火災報知器の不具合を抱えながらの施設管理について、横浜市と相談・協議の上、対応を進めました。</p>	<p>平成29年度は第3期指定管理期間の開始年度でしたが、指定管理業務全般を通じて、指定管理者選定時の提案内容の早期実現に向けて、積極的な取組みを行い、成果をあげたことを高く評価します。</p> <p>事業に関しては、横浜能楽堂の専門性や企画力を発揮した公演を継続し、高い券売率を維持するとともに目標を達成していることを確認しました。今後は、横浜市における古典芸能の専門文化施設として、能楽等をはじめとした古典芸能全般のすそ野の拡大や魅力の発信の実現や横浜地域全体を見据えた地域連携の拡大等のため、さらなる取組の実施を期待します。</p> <p>施設運営に関して、本舞台の利用率については、平成32年度までの目標である50%を達成したことを評価します。一方で、利用料金収入は目標未達であり、来館者数については昨年度よりも減少していることから、貸館の利用促進に向けた取組を継続し、古典芸能の愛好者拡大や持続可能な経営に向けた取組を求めます。</p> <p>施設管理においては、業務の基準等の通り、実施がされていることを確認しました。引き続き、日常的に適切な管理を行うとともに、指定管理者本部や市との情報共有を徹底することにより、文化財の保護や施設の長寿命化に向けて寄与する取組の積極的な実施を期待します。</p>